

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2373001128		
法人名	医療法人 豊成会		
事業所名	どんぐりの家		
所在地	愛知県豊田市青木町5丁目88		
自己評価作成日	平成22年10月27日	評価結果市町村受理日	平成23年 3月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2373001128&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成22年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

あるスタッフは、ここは一つのことに対し皆が共存しているところが素晴らしい。皆が共に成長していると語る。
 また、別のスタッフは、利用者さんに何かをしてあげるのではなく、寄り添って一緒にやることを学んだ…と。スタッフが心から惜しみなく利用者さんに接しているというスタッフもいて、理念の人格尊重が利用者さんのみにとどまらず、スタッフ間にも浸透されている。
 あるスタッフの「私は皆(他のスタッフ)についていくのが必死です」と。この言葉に管理者の私は思わず涙がこぼれました。人の気持ちを大切にするとところが、素晴らしいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人格の尊重」を理念にうたい、利用者へのコミュニケーション手段としてバリデーションの手法を使い、その人を大切にしたい寄り添いケアを実践している。
 ホームでの集団バリデーションを見た。穏やかな利用者が5名、車座になって集まっている。進行役を務める管理者が口火を切って質問した。「もし、死んでしまったら、誰が一番悲しんでくれるのかな?」と、ずいぶん重たい質問だ。しばらくの沈黙はあったが、「そりゃあ、息子だ」、「孫にきまっとる」と、利用者の重たい口が開き始めた。そして、20分ほどが過ぎたであろうか、利用者同士の意思確認が行われている。「やっぱりここで元気に暮らさにやいかん」、「皆で力を合わせにやいかん」、「そうだ、そうだ」と、利用者が見事な結論を引き出した。認知症の方の思考能力の健全さに脱帽。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	まずは人格尊重をモットーとし、次に事業所内外を問わず、人と人のふれあい、ぬくもり、なごみを大切に、スタッフ一同、日々寄り添う介護に心がけ接している。	利用者との係わりにバリデーションの手法を用い、理念として掲げる「ふれあい、ぬくもり、なごみ」の実践に努めている。職員は優しく係わり、利用者は落ち着いており、心地よい空気が漂っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にと言うにはまだまだだが、地域の代表者の方々をはじめとし、皆様の支援がとても手厚くなっており、昨年よりもさらに多くのボランティアさんの来訪や、行事への参加も増し、一段と交流が深まってきている。	各種のボランティアの来訪が増え、地域への密着性はさらに増している。近隣の小中学校との間では、それぞれの行事への招待・参加が恒例となっており、利用者との馴染みの関係もできつつある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々との交流が深まる中で、ありのままの利用者さんの姿をみていただけることにより、少しずつ理解の機会が増えている。支援方法を伝えられる取り組みを今後、もっと増やしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価員さんよりいただいたアドバイスをもとに、今年はいつものメンバーの皆様の他に、ボランティアの方、近隣の学校の先生方にもご参加の機会をいただけ、より幅広くご意見などもいただいたことにより、サービスアップへとつながっている。	運営推進会議が本来の機能を発揮しだし、利用者と地域を結ぶための方策を話し合っている。会議メンバーも充実し、地域の教育機関やボランティアグループからも参加がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村からの研修依頼を受けるなど、出来る限りの協力をさせていただいている。事業所の実情等を伝えられる機会は、介護相談員さんの役割も大きく、市町村との連携の礎にもなっていると思われる。	管理者は、市からの福祉行政支援活動依頼に応え、研修講師を務めるなどの協力体制をとっている。介護相談員を定期的に受け入れており、市との情報交換は緊密に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のもたらす悪影響は、スタッフ全員が理解しており、身体拘束にかわり、大変な方についてはより深く寄り添うケアの実践をしている。	管理者、職員ともに身体拘束のないケアの重要性を認識している。ただし、家族からの要望もあることから、利用者の安全性を重視して、通常は玄関施錠を行っている。	職員の配置が厚く、利用者の落ち着いている状態を見計らい、少しの時間でも施錠を解く試みを期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	寄り添うケアを中心に行っており、虐待など考えられず、その悪影響をスタッフは理解している。また、一人一人の方の表情、身体の変化にきめ細かい気配りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	これについては、昨年度も課題としたが、実践できず。今後はレベルアップを目指し、来年度までには確実に勉強の機会を設けたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必要時には機会を設けて、確実に実施させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家人へは面会時や、TELなどで、意見や要望を伺ったり、中には積極的な助言を下さる方もおられる。また、このことに関しては、運営推進会議の参加者の方々が大きな力添えをして下さっている。	毎回のことではあるが、家族アンケートによる満足度調査では、他に類を見ないほど高い支持を受けている。利用者だけでなく、家族の意見や要望についても、素早く把握して対処しようとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者とは、昨年度よりは意見交換の機会も増した。結果、サービス向上にもつながっている。	法人代表からホーム運営全般を任されている管理者ではあるが、代表との話し合いの機会を増やして職員にとっての働きやすい職場づくりを目指している。管理者、職員間の意思の疎通は図られており、定着も良い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者にほぼ任せておられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者にほぼ任せておられる。したがって研修は受けやすい状況にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は管理者にほぼ任せておられる。同業者との交流は少しずつ増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の入居時の不安な気持ちは充分にお察しできる。入居時には特に担当スタッフをはじめ、全スタッフがきめ細かい支援に努めている。又、スタッフ間の申し送りにも重点をおいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安な気持ちも充分理解できる。対話を多くもち、できた内容は、一つ一つ拾い上げ誠実に対応するように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	デイやショート枠は無いために、入居されてから、その人らしいケアの支援のために、スタッフ一丸で何度も話し合いを持ち、ケアしている。可能な要望には応じている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の利用者さんとの向き合い方をみても、ほぼ全スタッフが人対人であることを忘れずに、とても暖かい気持ちでご本人と接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	大切な事は細かい点までご家族と連携を取り合っている。たとえば、寂しがっているからご家族と外出を、などと伝えると、ご家族も即対応して下さる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者さんの入れ代わりが無く、ますます高齢化された中、ご本人の要望はなかなか出難い。そんな中でも特に一名の方は、この一年間でご本人を取り巻く環境の変化も大きかったが、きめ細かい支援により、とても落ち着いて生活できている。	高齢化や要介護度の進行から、馴染みの関係継続への支援が難しくなっている。そのような中でも、思い出の場所支援として、昔住んでいた地域の神社や通った小学校を訪問した事例がある。	ホームで作った職員との馴染みの関係継続も重要。退職された職員が気軽にホームを訪ねている現状を、今後も継続して支援してほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士が触れ合いやすいように、ソファを取り入れたことにより、より近いところで暖かみのある支援に繋がったと思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	すでに退居された利用者さんのご家族が、未だに訪ねて下さったり、特養に移られた方のご家族から現状報告をいただいたりといったことで、スタッフが面会に行ったりということもできた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが個々の方の情報の伝達に重点をおいている。又、スタッフで話し合いの機会も設け、その人を大切にするためのチームワークができており、検討する時間もとっている。	日々のケアの中から、その人の思いや意向、過去の生活歴を探っている。雑巾縫いの際、利用者が何気なく慣れた手つきで針に糸を通してくれた。職員は、利用者がかつて洋裁の仕事をしていたことを思い出した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者さんの入れ替わりはなかったが、把握する手段としては、もっともっと努力が必要だと思う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員会議で毎月こまめに話し合いをもっている。日々の出来事もスタッフ間でしっかりと申し送られており、スタッフは実践のために努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回はケアプランの評価と現状をご家族に伝え、ご家族の意見を伺ってすぐにケアプランに反映できるように取り組んでいる。また、地域の代表者の方々からのご意見もとても参考になっている。	「馴染みの場所への訪問」を、介護計画に取り入れて取り組んだ。懐かしい神社や小学校に、利用者は感無量の面持ちであった。ドライブ先で昔の知り合いに会い、話に花が咲くこともある。	懐かしい場所を訪ねた記憶は薄れていくが、そこで得た「喜び」の感情は残ると信じたい。利用者の思いを入れた介護計画を、一人、また一人と増やしてほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランをカルテの中に挟み、すぐに見れるようにしている。気になる点やプランの変更があれば、ノートに記載し情報の共有に努めることにより、現状に添ったプランに繋がれている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズには早期な対応ができているが、サービスの多機能化に関していえば、まだ課題があると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	レクの外出や、又、ボランティアさんの受け入れ、近隣への買い物等と、全体で実施できるものや、個のものとして支援している。この一年で、更にレベルアップできたと思われる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の様子に合わせて、専門医への受診を取り入れており、Drも毎回とても熱心に診察して下さい。ご本人、ご家族が安心して暮らせるようきめ細かい支援に努めている。	常に利用者の移行(住み替え)があるわけではないが、系列に老健施設を有することは家族にとっての大きな安心感につながっている。高齢化は進んでいるが、かかりつけ医との連携が良く医療面での不安は少ない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職はいないが、上記かかりつけ医や、法人内のDrとはいつでも連携がとれる状況にあり、開所以来協力体制を維持できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	この一年間の入院者の方は誰もおられず。ただし、このことの重要性は充分認識しており、病院関係者とは密な連絡をとれるようになっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の状況はこまめに報告、必要な折は、更に細かく連絡を取り合い、今後のケア内容や、別の施設の予約を勧めておく等のアドバイスを行っている。	「終末期のケアをホームで」との家族の希望があることから、ホームで対応できる範囲を伝えている。長く務めている職員も多く、これまでの経験から、重度化に対しての柔軟な対応も可能となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	開所以来、最低年一回は普通救命講習を事業所内で実施し、全スタッフがいざという時の対応ができるようにしている。結果、スタッフのレベルアップに繋がっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防署と連携して行なう訓練とは別に、新たに毎月一回、防災の日を設けて、避難訓練や設備の自主点検等を実施したり、地域の訓練にも参加させていただいている。	毎月、防災の日を定めて避難訓練を実施している。緊急避難場所である市営公園に隣接していることも心強い。推進会議メンバーである区長からも、防災に関する様々な提案をもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重は理念でもあり、利用者さんのレベル差がみられるが、個々の方への支援は、その人に応じた方法で行なっている。例：歌の好きな人には歌で接するなど	管理者が推し進めるバリデーションを活用し、利用者一人ひとりに適した係わりをもっている。失禁をとがめたり、食べこぼしに小言を言うこともなく、職員の言葉遣いは丁寧で、不適切な発言は全くなかった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	しっかりと自身の思いを語れる方は思いを語られており、そうでない方へはこちらより声かけを多くし、自己決定できる場を多く設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	夕食後にTVを見たいと言われる利用者さんに対しては、無理に就寝介助を行わず、ゆっくりと過ごせるようにする等、可能な限り配慮して支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	重度化してやれない方には、その人の好んだ服を着ていただいたり、また、お化粧をしたい方に化粧品を揃える、髪の毛になる人には髪飾りを用意するなどしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の持っている能力に応じた食事内容にしたりメニューの希望は極力取り入れている。、又、その人の残存能力に応じたお手伝いをしていただいている。	「食育」ではないが、利用者全員が畑で芋掘りを楽しんだ。中学生のボランティアも加わり、車いすの利用者も元気に参加できた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	このことに関しては、さらにスタッフ間の申し送りが細かい。水分、栄養、体重、排便具合など総合的に考え、個々に応じた支援ができています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人の能力に応じた方法で支援方法を分けて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	どんなに重度化して大変でも、トイレ使用可能な方には時間をかけてトイレでの排泄を実施するなど、個々の方の能力に添った支援を行なっている。	立位が保てる利用者には、極力トイレで排泄するように支援している。その甲斐もあってか、高齢化、重度化は進んできたが、3~4名の利用者は声かけを必要としないほど、自立排泄ができています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	メニューに野菜を多く取り入れたり、水分摂取が少ない人には、お茶をゼリー状に固めて出したりと個に応じた支援を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間は決まっているものの、入浴日や順番は可能な限り本人の希望も取り入れたり、その方の体調も考慮した個に添った支援を行なっている。	入浴は一日おきとなっており、入浴時間は午後後に設定されている。時折、入浴に対して軽い拒否を示す利用者もいるが、無理強いせず、気長に声かけを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調はしっかりつかんでおり、又、本人の様子をみて、本人がどうしたいかもたずねて個の支援を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬を使用し始めた時には、職員間のきめ細かい申し送りや、ノートを活用。定期的な会議でも取り上げ、皆で話し合っており、変化の把握がつかみやすい体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほとんどの方に対しては、ご本人の思いに添って支援させていただいている。認知症の進行に伴い、楽しみごとの支援がとても難しくなっている方もいるが、その方としっかりと向き合ったケアをしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員が日常的にということはまだまだできていないが、この一年間で、地域の方、ボランティアさん、ご家族の方のお力添えをいただき、全員の方があらゆる行事に、参加することができた。	今年も、職員の所有する畑でさつま芋の収穫体験を実施した。中学生のボランティアの参加もあり、車いすの利用者も畑まで入り込んで芋掘りを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で一括管理しているが、本人がおやつや備品等を必要としている時は、スタッフが支援して使っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名の方については電話をかけたいといった希望が時々きかれるようになってきた。その都度、要求どりの支援をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者さんの希望により、玄関前の廊下にソファを設置し、くつろいでいただける場所を作った。観葉植物、天窓もあり風も通り、明るく居心地良い場所で皆さんとても喜ばれている。	何度訪ねても、掃除が行き届き、清潔感と真新しさを感じる。共有部分に華美な飾り付けや調度はなく、利用者が落ち着いた雰囲気の中で生活を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記のソファといったくつろげる場所や、居室など、その方それぞれの思いで過ごされている。できない方は、その方をしっかりと見てスタッフが支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全員がなじみの物といった具合ではないが、その人の思い、ご家族の思いで、お部屋を工夫されている方もいる。	見学させていただいた利用者の居室は、編み物のアトリエであった。毛糸で編んだマフラー、セーター、帽子にベスト等、押し入れからは、ありとあらゆるものが出てきた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でベッドから起きやすくするために手すりを設置したり、迷ったり混乱しないように居室やトイレに案内の貼り紙を設置したりと、個々の利用者さんの状況に応じた工夫を行なっている。		

(別紙4(2))

事業所名 どんぐりの家

目標達成計画

作成日: 平成 23年 3月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	19・28	入居年月の長期化に伴い、ご本人の身体レベルの低下が見られる。ホーム内での親子のふれあいは多いものの、ホーム以外でのご家族とご本人の共有時間があまり持てていない方が多い。	“今日、今”が一番若いこの時に、ホーム以外でも何よりも大切な親子の時間を共有し、共に思い出作りをしていただきたい。	ホーム内の年間レクの外出予定の中に、最低年1回でも、ご家族にも参加いただく声かけ、実行をしてみる。(スタッフが支援をする)	12ヶ月
2	8	成年後見制度等、職務上必要と思われるものへの勉強を一部スタッフしか学んでいない。	仕事をする上で制度等の学びは、更なるレベルアップにつながると思われる。全スタッフが学ぶ事を目標とする。	一年間のうちに、勉強会の時間を持つ。(年間の研修計画の作成)	12ヶ月 (4ヶ月に1回評価していく)
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。